神戸大学交響楽団

'98 Summer Concert

1998.7.3 (Fri) 開演 19:00

尼崎市総合文化センターアルカイックホール

後援：神戸市民文化振興財団・兵庫県オーケストラ協議会・神戸新聞社

プログラム

歌劇「オベロン」序曲
Oberon : Ouvertüre
ウェーバー
Carl Maria von Weber

指揮：浅　野　亮　介
コンサートマスター：石　井　真　郷

「舞踏組曲」
Tanz - Suite
バルトーク
Béla Bartók

I. Moderato
II. Allegro molto
III. Allegro vivace
IV.Molto tranquillo
V. Comodo
VI. Finale : Allegro

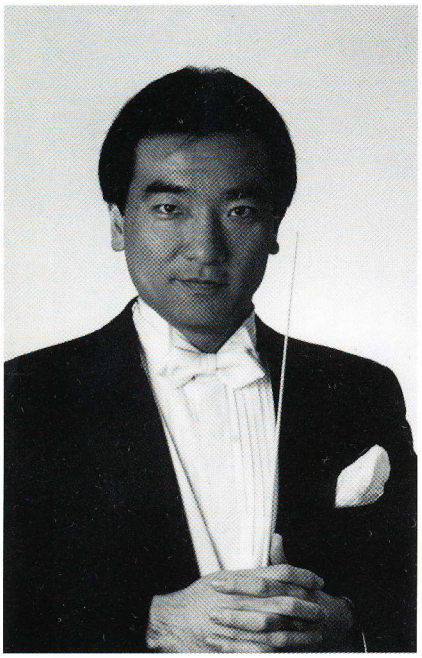
指揮：井　﨑　正　浩
コンサートマスター：林　　康一郎

交響曲 第9番 ハ長調 D.944 《ザ・グレート》
Symphonie Nr. 9 C-dur, D. 944 "Große"
シューベルト
Franz Schbert

I. Andante - Allegro ma non troppo
II. Andante con moto
III. Scherzo - Allegro vivace - Trio
IV. Finale Allegro vivace

指揮：井　﨑　正　浩
コンサートマスター：林　　康一郎

井﨑　正浩
MASAHIRO IZAKI



1995年第8回ブダペスト国際指揮者コンクールで優勝。コンクール中の演奏をハンガリー国立オペレッタ劇場総裁に認められ、同年11月同劇場でレハール《メリー・ウィドウ》を指揮、従来の伝統を踏まえた上での新鮮な音楽創りに聴衆だけでなく演奏者の圧倒的支持を受け大成功をおさめ、センセーショナルなデビューを飾る。1996年１月同劇場初来日公演にも指揮者の一人として同行、凱旋公演での手腕は「音楽の友」コンサート・ベストテン’96に選ばれるなど高い評価を得た。また1997年の同劇場再来日公演も指揮、1996年に引き続いて「音楽の友」コンサート・ベストテン’97に選ばれ、２年連続の快挙を成し遂げた。

ハンガリーにおいてはこれまでに、ハンガリー国立交響楽団、ハンガリー国立放送交響楽団（ブダペスト交響楽団）、ハンガリー国立歌劇場管弦楽団（ブダペスト・フィル）、ＭＶ（マーヴ）交響楽団、セゲド交響楽団等の主要オーケストラを指揮し、どれもが高い評価を受けている。加えて特筆すべきはこれまでのハンガリー国内での演奏の全てが国営テレビ・ラジオで中継あるいは放送されており、現在ではハンガリーで最もよく知られた日本人のひとりとなっている。1998年はマターヴ交響楽団への客演、９月からのサヴァリア交響楽団の常任指揮者への就任が予定されている。

またハンガリー国立オペレッタ劇場で共演した歌手たちの熱い要望によりＣＤ録音の指揮者に抜擢され、ミューヴェス・ハーズ社（ハンガリー）と契約、第一弾としてカールマン《サーカス・プリンセス》が1996年夏リリース。また1997年秋にドイツ・ツアーを指揮したハンガリー・スター・オペレッタ劇場合唱団およびハンガリー国立歌劇場管弦楽団とのレハール《ジプシーの恋》が引き続いてリリースされている。

日本では1996年１月に東京シティ・フィルのニューイヤーコンサートのデビューを皮切りに、読売日本交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、九州交響楽団、群馬交響楽団等に客演。また声楽を専攻した特技を生かしオペラやオペレッタ公演にも積極的に取り組む一方、合唱指揮者としても日本フィルハーモニー協会合唱団の常任指揮者を務めるなど幅広い活動を行っている。今後も日本、ハンガリー国内での多くのオーケストラへの客演やルーマニア、スイスの劇場デビューを控え、これからの活躍にも大きな期待が集まっている。

指揮法を安永武一郎、故カール・エスターライヒャー、ギュンター・トイリング、湯浅勇治、遠藤雅古、伊藤栄一の各氏に師事。福岡教育大学音楽科卒業、東京学芸大学大学院（作曲・指揮法講座）修了、オーストリア国立ウィーン音楽大学（オーケストラ指揮科・合唱指揮科・作曲科）留学。

トレーナーの先生方

ミラン・ラディッチ（ザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団・主席ヴィオラ奏者）

宇治原　　明（大阪フィルハーモニー管弦楽団・主席ファゴット奏者）

宮　村　　聡（京都市交響楽団・主席トランペット奏者）

以上の先生方にご指導頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。